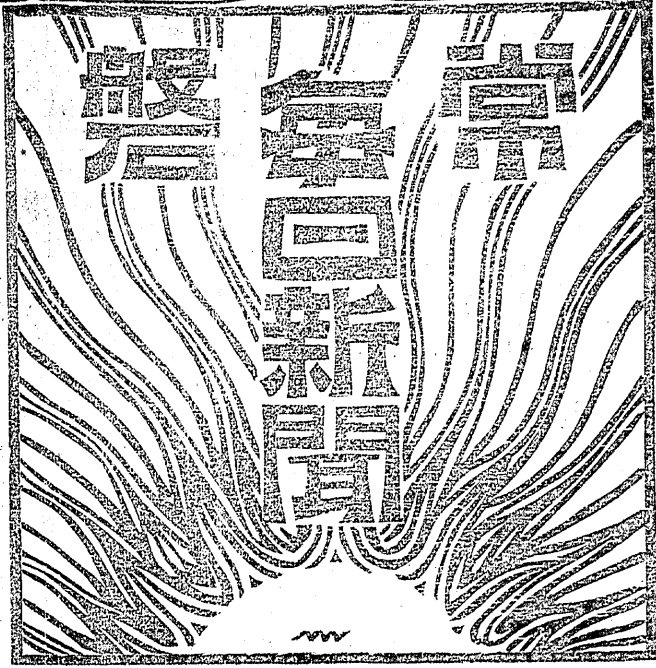


日刊

發行兼編輯人 川崎文治
 印刷人 川崎文治
 發行所 福島縣石城郡平町字長橋町卅五番地
 常警毎日新聞社



年頭に際して

荆の路を先驅し得る力

社長 川崎文治

本紙が一社一人主義を標榜して磐陽の一角に濺測たるその第一聲を擧げ、猪突の勇を鼓して理想の境地を開拓せんが爲めあらゆる努力を傾注し着々經營の基礎を固めつゝ茲に燦爛たる新春を迎へ得たるは感銘に堪わざる處である而し年が新たにたつたそれ丈の事に依つて満足すべきでない、それだけでは吾人にとつて何等の廻轉期をも意味しないのである。現實其ものに不合理が持續する限り、吾人は新しい喜びを味ふ學が出来ない、吾人の前に展開された現實は創造的過程にあつて、しかも險難な形勢下に在るを痛感する。今後幸ひにして諸彦の深更なる御聲援裡に不合理なる現實の扉を打開すべく唯まつしぐらに棘の路を先驅し得る力を把持する勇者として地方文化に貢獻し得べきであつたとすれば光榮是れに過ぎたるはなく時の推移其ものが此榮冠を齎す時始めて新年を新年として喜ぶ事が出来ると思ふ。本紙は此理想の下に飽迄奮闘意を盡さるべきを要ふ。是れ本紙が来るべき一年間の操縦界に取らんとする態度である

賀正

代議士 白井博之

平町 紺屋町
 電話 七〇番

石城郡選出
 縣會議員

井上茂作 (平町)

小野晋平 (小名濱町)

大平睦四郎 (窪田村)

草野順平 (平町)

古川傳一 (植田町)

木村清治 (大浦村)

大正三十年の新年を賀す

石城銀行組合

磐城	平	磐	磐	七十七	農工	第百七	四	磯原
電話 一三五	電話 三〇	電話 二二	電話 一四	電話 一四	電話 一四	電話 一四	電話 一四	電話 一四
支店 三	支店 三	支店 三	支店 三	支店 三	支店 三	支店 三	支店 三	支店 三
行番 四	行番 四	行番 四	行番 四	行番 四	行番 四	行番 四	行番 四	行番 四

謹賀新年
 舊年中は種々御厚情を蒙り難有奉深謝候尚本年も不相變御愛顧御引立の程奉希上候 謹告

福島縣平町
 醬油釀造元
 古鹽屋本店
 店主 山崎與三郎

平醫師會聯合

酒大藤	矢鈴吉	星合根	新松
井森	沼吹	木田	津本
電話 二五	電話 二五	電話 二五	電話 二五
支店 三	支店 三	支店 三	支店 三
行番 四	行番 四	行番 四	行番 四

入山採炭株式會社
 入山坑務所
 吉田宗雄
 磐城炭礦株式會社
 礦業部
 石城郡内郷村

盛々御健やか

攝政宮御婚儀近々

た住まひ赤坂離宮の忙しき
今後の御生活は全部洋式に

御婚儀の日がいよいよ近づいた儀服の召替へを遊ばす
いてくるので關係諸方際等必要からである、そ
はいろいろと準備に多忙をのほか離宮東門内にも物乾
極めてある、中にもいま東場、洗濯場、消毒所など二
宮殿下が住まひになつて三棟新築中である
赤坂離宮は妃殿下をた
迎へるための準備で毎日
石を研る音が廣い
御所の なかに飾する
やら、内匠の人々の出入り
も賑やかである、そんな雑
然とした響きのうちに御
でになる東宮殿下にお側
人たちも恐縮してゐるが、
殿下は少しも意にかけさせ
られず最近ますます御健康
もお勝れになつて御體重も
増す一方であることは寔に
お芽出たい次第である、離
宮内で手入を急いでゐる
のは兩殿下の居間と、新
らしく奉仕する女官の事務
室、宿直室などであるが、
それも内部に

初春の吉例

平消防組の出初式

街頭に梯子乗りの妙技
帝國館にて組員を表彰

平消防組出初式は例年の吉合圖に在平各官衛公署員町
例により四日前六時警鐘
を合圖に全員署前に整列、
伊藤署長の點檢あり蒸氣、
瓦斯隣の各仰筒を先登に全
町に互つて漸次梯子乗りの
放れ技を演じ更らに午後一
時からは公會堂跡にて放水
試験を爲し終つて帝國館に
引揚げ伊藤署長の訓示、井
上組頭の告辭石坂組頭の
挨拶等あつて優良組員を表
彰し閉式後慰勞の祝宴を開
き平藝妓の餘興ある由

平町の

名刺新年會

出席六百有余
平町名刺交換會は既記の如
く本日午前十一時から聚樂
館に於て開催定刻第一鈴を

拜賀式

各官衛學校に

くも一月廿日までは出来
上る筈である
今日を壽く
警城中學、縣立高女、平
一第二小學、佐賢學舎、青
年學校、藤田、平陽、石城
及平産科看護婦官公私立の
各學校及各官公署に於ては
本日午前九時夫々拜賀式を
賑やかさも御婚儀氣
分が豊かである、工事は遅
延する

いよいよ

汁は煮出

入れ（三枚入れるもので
はありませぬ、三切を身
きれといつて、初春早々
縁起が悪いと言ひます）
海苔の焼いたのを一寸五
分四方位切つてせせ貝の
柱でも買つてあつたなら
ば、其れを少し入れ、土
佐醬油を珈琲匙に二杯位
と食鹽を少々入れ沸湯を
其の上からさしますと、
お雑煮が出来ます。又蒲
餅でなく鴨を、醬油一合を
五勺に煮つめて冷した中へ
薄く切つて漬り込んで置
いたのを入れても宜しうござ
います。鴨を入れる時は、
食鹽でばかり味をつけ、土
佐醬油を用ひないのです。
又此等はお餅を入れない
と、前に申したた吸物にな
ります。お吸物を出す時に
は、必ずユツをそいでた入
れ下さい。

平町官廳御用始

坂町長其他の祝辭あつて宴
に移り萬歳を三唱乾盃開會
の筈
平町各官公衛公署にては四
日午前九時御用始めを行ふ
が五日は新年宴會の大祭祝
日、六日は日曜に相當する
爲め執務を休み七日から平
着席、伏見助役の開辭、伊
常通りの執務を爲す筈

愛ごし子の喜ぶ顔を見て

正月を祝福し度い

彼等を春らしく過さしめよ
曾我平第一校長語る
「早くコイ、コイに正月」
と歌ふ兒童等の歌を聞いて
も如何に正月が兒童等の
待ち焦れる喜びの極致であ
るかを伺へ知る事が出来る
平第一小學校長の曾我直次
氏は

新年雑詠

高月會にて

下駄買うて持ちたる子等
に春立ちぬ 馬 城
買初や戻り賑ふ馬車の客
同
初明り神すむ山の聲さふ
柴 笛
柏手の笹や初詣
大 北
海原に光待つ今日は初風
同

恭賀新年

石城政友俱樂部幹事長
鈴木辰三郎

御料理
尼子亭
松ヶ岡公園内
電話二三〇番

金成通
石城郡錦村

平町青年分團幹部
小野 和七 桑名 仙松
遠藤 林藏 江川 市藏
松本 熊五郎 遠藤 喜藏
猪狩 富雄 關内 新次郎
小野 義勝

名由良之助醸造元
永山和平
平町久保町
電話二〇七番

初賣の小判數ふる夜更け
かな 丹 薦
初賣の一番客も法師かな
同
初賣の店に小僧の聲聞れ
耕 影
初荷華か源水が獨樂の人
崩れ 更 石

謹賀新年

高岡唯一郎

石城郡草野村

警城平町二丁目

なかや洋服店

電話二〇三番

常磐線平驛前

平驛
公認運送取扱人組合

株式平電氣企業社

本社 福島縣石城郡
平町停車場前
出張所 東京市下谷區
御徒町李番地

清光堂分店

乾 康治

平町才樋小路
電話三一五番

平町南町川岸通

活動
常設 平館

電話四六六番

食道樂

大貞

電話四一三番

飯野村長

山崎吉平

江名町長

中山元治

酒清良醇

標商錄登
鶴仙
元造釀

石城郡平窪村
松吉屋本店
電話二四一香

高木己之吉

石城郡渡邊村

郡山電氣
株式會社 平支店

平町大工町
電話七五番。一六三番

丸登株式店

店主 川添房次郎
電話三三二二番

平町

色川勝三郎

電話三四一香
製材部 第一平驛前
第二級驛ヨリ約一里

御料理

大和家

電話十四番

警城國平町田町

銘酒白菊正宗發賣元

和洋酒雜詰問屋

廣瀨支店
電話五十四番
振替口座東京四七一一九番

平町二丁目

西村屋藥舖

電話長三番

警城平町貳丁目

和洋銅鐵
度量衡 坂田藤助

電話一二八番

三井履物店

平町二丁目
電話一五六番

御料理

一の井

電話一六七番

佐川洋服店

平町南町

小名濱消防副組頭

立花典次郎

四倉株式會社

常磐線四倉驛前

御料理

谷口樓

電話八番

平町料理屋組合